



Title	青森県太平洋岸沖から記録されたミツバヤツメ
Author(s)	宮原, 一; 今村, 央; 石戸, 芳男; 仲谷, 一宏
Citation	北海道大学水産科学研究彙報, 53(3), 87-89
Issue Date	2002-12
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/21972">http://hdl.handle.net/2115/21972</a>
Type	bulletin (article)
File Information	53(3)_P87-89.pdf



[Instructions for use](#)

## 青森県太平洋岸沖から記録されたミツバヤツメ

宮原 一<sup>1)</sup>・今村 央<sup>2)</sup>・石戸 芳男<sup>3)</sup>・仲谷 一宏<sup>1)</sup>

(2002年8月26日受付, 2002年10月10日受理)

### Record of a Petromyzontid Pacific Lamprey, *Entosphenus tridentatus* from the Pacific Coast of Aomori Prefecture, Japan (Agnatha: Petromyzontiformes)

Hajime MIYAHARA, Hisashi IMAMURA, Yoshio ISHITO and Kazuhiro NAKAYA

#### Abstract

A single specimen of pacific lamprey, *Entosphenus tridentatus* (Richardson, 1836) (HUMZ 175824; 551.0 mm TL), was collected off the Pacific coast of Aomori Prefecture, Japan, in January 2001. The most specimens of this species have been collected from the inland waters in Japan, and this specimen represents the first record of the species from the northern Honshu in Japan, and also the second record from the sea in the waters of Japan.

**Key words:** Pacific lamprey, *Entosphenus tridentatus*, Aomori Prefecture, Pacific coast, First record, Second marine record

ヤツメウナギ科 (Petromyzontidae) のミツバヤツメ *Entosphenus tridentatus* は日本では北海道、栃木県および高知県の3地域から報告されているが (Okada, 1937; 佐藤, 1951; 青柳, 1957; 宮地ら, 1976; Honma and Katoh, 1987; 福富ら, 2002), いずれも淡水の海跡湖または河川からの記録であり, 日本周辺の海域からの記録は佐藤 (1984) の釧路沖から得られた本種の写真による報告に限られる (Honma and Katoh, 1987)。また, 本種は日本での捕獲記録が少ないため, 環境庁 (現環境省) のレッドリストでは情報不足 (DD) とされており (環境庁, 1999), 分布等の基礎的な情報の蓄積が必要とされている魚種である。

このような状況下で, 2001年1月に青森県沖の太平洋からミツバヤツメと同定される1個体のヤツメウナギ科の無顎類が採集された。したがって, ミツバヤツメの分布情報の蓄積を目的として, 本標本を本海域からの初記録および日本周辺の海域からの2番目の記録として報告する。

計数方法は佐藤 (1984) に, 計測方法は Yamazaki and Goto (1997) に従った。計測部位には以下の訳語を用いた。Prebranchial length, 前鰓長; branchial length, 鰓長; trunk length, 軀幹長。観察した個体は北海道大学大学院水産科学研究科多様性生物学講座 (HUMZ) に魚類標本として登録されている。

本研究を進めるにあたり, ご指導いただいた北海道大学大学院水産科学研究科の矢部 衛助教授, および標本を送付して下さった独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所八戸支所の服部 努博士に対し, 謹んで感謝の意を表す。

#### ミツバヤツメ

#### *Entosphenus tridentatus* (Richardson, 1836)

(Fig. 1)

#### 材料

HUMZ 175824, 1個体, 全長 (TL) 551.0 mm, 青森県六ヶ所村沖, 底曳網, 2001年1月9日。

#### 記載

上口歯板尖頭数 3; 下口歯板尖頭数 6; 側唇歯尖頭数 2-3-3-2。

前鰓長 12.1% (全長に対する百分率, 以下同様), 鰓長 9.9%, 軀幹長 51.0%。

体は延長し, 側扁する。両眼間隔域中央に明色の松果腺孔があり, その前方の正中線上に1個の鼻孔がある。頭部側面の眼は皮下に埋没する。眼の後方に7個の丸い鰓孔が1列に並ぶ。各鰓孔の縁辺には3枚の低い皮弁があり, それ

<sup>1)</sup> 北海道大学大学院水産科学研究科多様性生物学講座  
(Laboratory of Marine Biodiversity, Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University)

<sup>2)</sup> 北海道大学総合博物館  
(The Hokkaido University Museum)

<sup>3)</sup> 八戸市湊高台  
(Minatotakadai, Hachinohe, Japan)



Fig. 1. Lateral view of *Lampetra tridentatus*, HUMZ 175824, 551.0 mm TL, off Rokkasho, Pacific coast of Aomori Prefecture.

ぞれ鰓孔前縁、後縁上部および後縁下部を縁取る。1本の微小で単純な皮質突起が各鰓孔の後縁直後にある。口盤は円形で、多数の短い総状皮弁で縁取られる。体の後部に2基の背鰭と尾鰭がある。第1および第2背鰭はよく離れる。対鰭、臀鰭および鱗がない。

生鮮時の体色は、体の背面は灰青色で、腹面は淡い。第2背鰭および尾鰭は暗色を呈する。

#### 分布

本種は日本では北海道、青森県、栃木県および高知県から報告されており (Okada, 1937; 佐藤, 1951; 青柳, 1957; 宮地ら, 1976; Honma and Katoh, 1987; 福富ら, 2002; 本研究), 国外ではアリューシャン列島からバハカリフォルニアにかけて分布する (Nakabo, 2002)。

#### 備考

本標本は3尖頭の上口歯板と4対の側唇歯を持ち、各側唇歯は上からそれぞれ2, 3, 3および2尖頭であるという特徴を持つ。これは Hubbs and Potter (1971) および Honma and Kato (1987) が示したミツバヤツメ *Entosphenus tridentatus* [Hubbs and Potter (1971) は *Lampetra (Entosphenus) tridentata* とした] の特徴によく一致する。したがって、本研究では本標本をミツバヤツメと同定した。

ミツバヤツメは日本では、これまで北海道の勇払川水系ウトナイ湖と釧路沖、栃木県の利根川水系鬼怒川と那珂川水系の複数の河川、および高知県の吉野川水系穴内川で記録されているにすぎず (Okada, 1937; 佐藤, 1951; 青柳, 1957; 宮地ら, 1976; 佐藤, 1984; Honma and Katoh, 1987; 福富ら, 2002), 環境庁 (現環境省) のレッドリストで情報不足 (DD) のカテゴリーに位置づけられている (環境庁, 1999)。また、佐藤 (1984) が用いた写真は釧路沖から採集された個体である (Honma and Katoh, 1987) が、これが日本周辺海域からの唯一の記録であった。したがって、本報告は青森県からの初記録であると同時に、本邦周辺海域からの2番目の記録となる。

福富ら (2002) が栃木県那珂川水系から得られた21個体のミツバヤツメを報告するまでは、本種の日本での捕獲数は6個体のみで (福富ら, 2002), ミツバヤツメの日本で

の記録は偶発回遊によるものと考えられていた (山崎・後藤, 2000)。しかし、福富ら (2002) は同水系の1支流において、本種の自然産卵を確認したことなどから、本種が同水系で再生産を行っている可能性が高いと考えた。また、彼らは本種の再生産を確認することの必要性に加え、環境省のレッドリストでの希少種としての本種の位置付けを明確にするために、本種の河川生活期の生態を明らかにすることの必要性を述べている。一方、本種は遡河回遊性であることが知られているが (Hubbs and Potter, 1971), 日本周辺海域からは本研究を含めて捕獲記録は2例しかなく、本海域におけるミツバヤツメの生物学的情報は極端に不足している。よって、本種の河川での生態解明に加え、日本周辺海域における分布などの基礎的情報の蓄積も必要であると考えられる。

#### 引用文献

- 青柳兵司 (1957) 日本列島産淡水魚類総説。大修館書店、東京。
- 福富則夫・中村智幸・土居隆秀・武田維倫・尾田紀夫 (2002) 栃木県那珂川水系におけるミツバヤツメの捕獲記録、産卵床の立地条件および水槽内における産卵。魚類学雑誌, 49, 53-58。
- Honma, Y. and Katoh, H. (1987) Notes on the Pacific lamprey, *Lampetra tridentatus* (Richardson), caught in the branches of Naka River in Tochigi Prefecture, Japan. *Rep. Sado Mar. Biol. Stat. Niigata Univ.*, 17, 13-19.
- Hubbs, C.L. and Potter, I.C. (1971) Distribution, phylogeny and taxonomy. pp. 1-65, Hardisty, M. W. and Potter, I.C. (eds), *The biology of lampreys*. Academic Press, London.
- 環境庁 (1999) レッドリスト, 汽水・淡水魚類。生物多様性センター: [http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb\\_f.html](http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html).
- 宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦 (1976) 原色日本淡水魚類図鑑。保育社、東京。
- Nakabo, T. (2002) Petromyzontiformes, 2. Petromyzontidae, lampreys. pp. 110-111, 1440, Nakabo, T. (ed), *Fishes of Japan with pictorial keys to the*

- species, English edition 1.* Tokai University Press, Tokyo.
- Okada, S. (1937) On the ammocoetes of lampreys found in Hokkaido. *Bot. Zool.*, **5**, 957-966.
- 佐藤信一 (1951) 北海道に於けるヤツメに関する考察. 北海道大学水産学部研究彙報, **1**, 54-62.
- 佐藤寅夫 (1984) ヤツメウナギ目. pp. 1-2, pl. 1-E, 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑, 東海大学出版会, 東京.
- Yamazaki, Y. and Goto, A. (1997) Morphometric and meristic characteristics of two groups of *Lethenteron reissneri*. *Ichthyol. Res.*, **44**, 15-25.
- 山崎祐治・後藤 晃 (2000) ヤツメウナギ類における系統分類と種分化研究の現状と課題. 魚類学雑誌, **47**, 1-28.